

# 公立大学法人岩手県立大学 学生ホール棟 2階厨房改修工事

番 号	図面名称	番 号	図面名称	番 号	図面名称
1	表紙	M-01	機械設備 特記仕様書	E-01	電気設備工事 特記仕様書(厨房改修)
A-01	特記仕様書1	M-02	2階3階 給水給湯排水管平面図(撤去)	E-02	照明器具姿図
A-02	特記仕様書2	M-03	2階 給水給湯管平面図(改修)	E-03	厨房2階 電灯
A-03	案内図・配置図	M-04	2階 排水管平面図(改修)	E-04	厨房2階 コンセント
A-04	仕上表	M-05	3階 排水管平面図(改修)	E-05	厨房分電盤リスト 改修前
A-05	学生ホール棟 2-3階平面図(改修前)	M-06	2階 空調換気設備ダクト平面図(改修)	E-06	厨房分電盤リスト 改修後
A-06	学生ホール棟 2-3階平面図(改修後)	M-07	2階 空調換気設備パッケージエアコン平面図(改修)		
A-07	学生ホール棟 断面図(改修後)	M-08	3階 空調換気設備パッケージエアコン平面図(改修)		
A-08	厨房 2階平面図(改修前)	M-09	2階 フード内消火設備平面図(改修)		
A-09	厨房 2階平面図(改修後)	M-10	3階 フード内消火設備平面図(改修)		
A-10	建具表	M-11	2階 ガス設備平面図(改修)		
A-11	厨房 2階天井伏図(改修前)	M-12	2階厨房機器レイアウト図(改修前)		
A-12	厨房 2階天井伏図(改修後)	M-13	2階厨房機器リスト(改修前)		
A-13	部分詳細図(1)	M-14	2階厨房機器レイアウト図(改修後)		
A-14	部分詳細図(2)	M-15	2階厨房機器リスト(改修後)		
A-15	部分詳細図(3)				
A-16	部分詳細図(4) シャッター詳細				
A-17	部分詳細図(5) シャッター詳細				

## 00 特記仕様書の取扱いについて

- 項目は、項目番号に、○印をつけたものを適用する。
- 細目は、●印をつけたものを適用する。
- その他特記事項は、( )内に記載する。
- 製造会社、施工会社指定については、後欄のメーカーリストに依るものとし、同等品以上と読み替える事も可能である。  
但し、その使用、採用に当たっては、係員の承認を受けるものとする。

## 01 一般共通事項

① 適応範囲	●本特記仕様書は、各共通仕様書及び補足事項に記載なき事項を特記するものであり、各工事において、他の工事との関連ある事項は、各々該当の記載事項を参照する。																																																																																
② 疑義	●本工事の設計図書に関する疑義は、工事契約前に、質疑応答書をもって確かめておくものとする。 ●設計図書に記載なくとも、外観上、構造上、設備上当然必要と認められるものは、係員の指示に従い、請負金額の範囲内において施工するものとする。																																																																																
③ 優先順位	●本工事の設計図書等の優先順位は、下記による。 1. 現場説明事項(質疑応答書を含む) 2. 特記仕様書 3. 各設計図 4. 共通仕様書(官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書) 5. 公共規格及びこれに準ずる規格																																																																																
④ 材料試験	●本工事に使用する材料のうち、係員より指示があるものに関してはその成績表を提出し、又は係員の認める試験所で試験を行い、確認を受けなければならない。 なお試験に要する諸経費は、すべて請負業者の負担とする。																																																																																
⑤ 提出図書	●本工事の施工に伴う提出図書は下記に定める他、必要に応じて係員と協議の上、作成するものとする。 <table border="1"><thead><tr><th>提出図書</th><th>部数</th><th>提出時期</th><th>備考</th></tr></thead><tbody><tr><td>1.工事請負契約書</td><td>3</td><td>契約前</td><td>控えとなるもの</td></tr><tr><td>2.工事工程表</td><td>3</td><td>契約後速やかに</td><td>ネットワーク工程表</td></tr><tr><td>3.現場代理人及び主任技術者届</td><td>3</td><td>〃</td><td>経歴書</td></tr><tr><td>4.協力業者名簿</td><td>3</td><td>〃</td><td>一級建築士証明</td></tr><tr><td>5.メーカーリスト</td><td>3</td><td>〃</td><td></td></tr><tr><td>6.仮設計図書</td><td>3</td><td>〃</td><td></td></tr><tr><td>7.施工書、製作図</td><td>3</td><td>実施15日前</td><td>各工事毎</td></tr><tr><td>8.工事工程報告書</td><td>3</td><td>1ヶ月前</td><td>工事進捗表、写真、日報</td></tr><tr><td>9.打合議事録</td><td></td><td>その都度</td><td></td></tr><tr><td>10.変更工事見積書</td><td>3</td><td>〃</td><td></td></tr><tr><td>11.出来高承認届</td><td>3</td><td>〃</td><td></td></tr><tr><td>12.官公署届出書類</td><td>3</td><td>〃</td><td></td></tr><tr><td>13.材料試験報告書</td><td>3</td><td>試験後10日以内</td><td></td></tr><tr><td>14.工事竣工届</td><td>3</td><td>竣工時</td><td></td></tr><tr><td>15.工事竣工引渡書</td><td>3</td><td>〃</td><td></td></tr><tr><td>16.工事竣工写真</td><td>3</td><td>竣工時より20日</td><td></td></tr><tr><td>17.工事竣工写真</td><td>3</td><td>〃</td><td></td></tr><tr><td>18.工事保証書</td><td>2</td><td>竣工時</td><td></td></tr><tr><td>19.鍵リスト</td><td>2</td><td>〃</td><td>指定ボックス入</td></tr></tbody></table> ●設計図書 着工に際し、請負者は設計図書の原因を設計事務所より借り、縮小版(A3版)を作成し第2原図1部と製本4部を提出する。 ●総合図 施工着手に建築図に、建築、電気、空調給排水衛生の全ての要素を記入し係員に提出し、承認を得るものとする。 ●施工図、製作図 竣工にあたっては、関係者の確認済の竣工図を係員に提出して承認を得るものとする。また、工事竣工後に係員の指示によるものを縮小(A3版)し、製本にて提出する。 ●竣工図 工事竣工後、請負者は設計変更の行われた部分について、設計原因を訂正し、提出する。 *黒表紙金文字製本 A3版 1部 *観音製本 A3版 3部 *縮小版(A3版) 第二原図 1部 *製本(A3版) 3部 ●竣工写真等 *撮影は監理者の指定する建築写真の専門家によるものとし、撮影箇所は監理者の指示による。 *アルハム帳は指定するものとする。 *画像データ(TIFF、JPEG)CD-Rを2部提出する。 *助成金申請の工事結果報告に必要な写真を撮影し、所定の書式にて監理者に提出する。 ●印刷したものをファイル綴じ	提出図書	部数	提出時期	備考	1.工事請負契約書	3	契約前	控えとなるもの	2.工事工程表	3	契約後速やかに	ネットワーク工程表	3.現場代理人及び主任技術者届	3	〃	経歴書	4.協力業者名簿	3	〃	一級建築士証明	5.メーカーリスト	3	〃		6.仮設計図書	3	〃		7.施工書、製作図	3	実施15日前	各工事毎	8.工事工程報告書	3	1ヶ月前	工事進捗表、写真、日報	9.打合議事録		その都度		10.変更工事見積書	3	〃		11.出来高承認届	3	〃		12.官公署届出書類	3	〃		13.材料試験報告書	3	試験後10日以内		14.工事竣工届	3	竣工時		15.工事竣工引渡書	3	〃		16.工事竣工写真	3	竣工時より20日		17.工事竣工写真	3	〃		18.工事保証書	2	竣工時		19.鍵リスト	2	〃	指定ボックス入
提出図書	部数	提出時期	備考																																																																														
1.工事請負契約書	3	契約前	控えとなるもの																																																																														
2.工事工程表	3	契約後速やかに	ネットワーク工程表																																																																														
3.現場代理人及び主任技術者届	3	〃	経歴書																																																																														
4.協力業者名簿	3	〃	一級建築士証明																																																																														
5.メーカーリスト	3	〃																																																																															
6.仮設計図書	3	〃																																																																															
7.施工書、製作図	3	実施15日前	各工事毎																																																																														
8.工事工程報告書	3	1ヶ月前	工事進捗表、写真、日報																																																																														
9.打合議事録		その都度																																																																															
10.変更工事見積書	3	〃																																																																															
11.出来高承認届	3	〃																																																																															
12.官公署届出書類	3	〃																																																																															
13.材料試験報告書	3	試験後10日以内																																																																															
14.工事竣工届	3	竣工時																																																																															
15.工事竣工引渡書	3	〃																																																																															
16.工事竣工写真	3	竣工時より20日																																																																															
17.工事竣工写真	3	〃																																																																															
18.工事保証書	2	竣工時																																																																															
19.鍵リスト	2	〃	指定ボックス入																																																																														
⑥ 定例打合会議	●工事の円滑な進行を計るため、係員の指示により工事期間中定期的に各工事責任者を召集し、打合せを行うものとする。 ●請負者は定例打合会議々事録を執り、その都度係員の承認を得るものとする。																																																																																
⑦ 既設部分との取合	●既設建物と今回工事の取合部分、その他で所り及び工事の都合等により破損、損傷させた箇所は、今回工事仕上げ及び旧工事仕上同材にて完全に補修しなければならない。																																																																																
⑧ 別途工事	●別途工事についての工事工程並び納まり等に関して、別途工事業者と密接に連絡し、調整に当らなければならない。																																																																																
⑨ 工事保証その他	●建物竣工引渡し後、貴社の施工基準による年数以内において、工事不良の発生したと認められる損害は、請負者の負担にて速達丁寧に復旧する。 ●本工事施工に際しては、本工事場所の工事による騒音、振動等についての地域規制の有無を確認し、規制のある場合はそれに従い施工計画を立て、関係官庁の指導を受ける。																																																																																

## 02 仮設工事

① 仮囲い	●構造：鋼板製 ●木製 ●その他(単管シート) ●高さ：1.5M 1.8M 3M以上( ) ●その他(高さ2.7m 食堂内に粉塵が回らないよう注意を払う) ・仕上：●仕上なし ●ペイント仕上 ・その他( ) ・範囲：道路面、および安全上必要と思われる範囲とする。 ・意匠：全体総合仮設計画による( )
② 係員詰所	・構造：プレハブ造 木造 ●その他( ) ・規模：10M内外 20M内外 35M内外 ・その他( ) ・備品：机、椅子、書類及び図楽欄、図板、定規、黒板 温湿度計、テストハンマー、ノギス、安全帽 来客用安全帽、長靴、水平垂直器、ロッカー ・その他(プリンター ) ・設備：電灯 給排水、給湯設備 電話 冷蔵庫 消火器 インターホン クーラー ・その他( ) ●係員詰所は工事打合せの利便性を考慮し請負事務所に隣接して設置する。
③ 看板	・本工事現場に掲示する看板は、大きさ、書体、仕上げ、取付位置など予め係員と協議する。
④ 工事用水電力	●利用できる(●有償 ●無償) ●利用できない 必要とする電力量および水量を検討し、計上すること。
⑤ 障害物の処理	●工地上撤去、移設を要する軽微なものは、本工事の範囲とする。
⑥ 設計G.L.	・標準G.L.の決定及び、B.M.の設置は、係員の立会いの元行う。
⑦ 保護設備	●本工事の施工に当り、付近住民、隣接建物、工作物、通行人に対し損害を与えぬ様必要な保護設備を計画し、係員及び各関係の承認を得て実施する。万一損害を与えた場合速やかに応急手当、復旧工事を行う。なおその際の費用は、請負者の負担とする。 ●工事完了後、建物引渡し前に全体の撤除を行い、公道の工事による損傷部は係員確認の上、全延長全幅舗装改修とする。 ●既存建物の空調室外機、その他の移設や養生を適宜、見込むこと。
⑧ その他	

## 03 土工事

1. 根切り	・工事着手前に根切方法、山留方法、排水方法、使用機器等を記した施工計画図を提出し、係員の承認を得るものとする。 ・根切完了後、深さ、大きさ、床さらいの状態について、係員の承認を得るものとする。 ・特殊工法
2. 敷地整理	・樹木：移補 伐切 ・その他(工事に伐採等が必要な場合は、確認すること)
3. 埋戻し、盛土	・埋戻し：根切り土使用 ●その他( ) ・盛土：無 ●有
4. 残土部分	・場外搬出 ・場内堆積 場内数均し ・その他( )

## 04 地業工事

1. 地耐力試験	・不要 ●必要 ケ所 ・長期支持力 t/m
2. 既設杭地業	・杭の種類：RC杭 PC杭 ●その他( ) ・長さ等：詳細については構造設計図特記による。 ・試験杭：詳細については構造設計図特記による。 ・アースオーガー法：不要 ●必要 G.L. m径
3. 場所打コンクリート地業	・杭の種類：アースドリル杭 ベルト杭 深礎工法 ・その他(G-ECOパイル工法 ) ・長さ等：詳細については構造設計図特記による。 ・使用鉄筋：詳細については構造設計図特記による。 ・コンクリート：詳細については構造設計図特記による。 ・積荷試験：不要 ●必要 ケ所
4. 鋼管杭地業	・杭の種類：STK400 SYK490 ●その他( ) ・長さ等：詳細については構造設計図特記による。
5. 割り石及び砂利地業	・地業の種類：割り石 砂 砂利 砕石 ・その他( ) ・厚さ：150 m/m
6. ラップルコンクリート地業	・コンクリートの調合：セメント1・砂3・砂利6(容積比) ・コンクリートと玉石の比率：1:1 ・その他( )
7. 捨てコンクリート地業	・厚さ：50 m/m ・調合：セメント1・砂3・砂利6(容積比)
8. ポリエチレンフィルム敷き	・不要 ●必要 厚0.20m/m
9. 特殊工法	

## 05 コンクリート工事 (構造図において明記のあるものはそれに従う)

1. 鉄筋コンクリート	・コンクリートの種類：普通コンクリート 早強コンクリート ・その他( ) ・設計基準強度：18N/mm <sup>2</sup> 21N/mm <sup>2</sup> 24N/mm <sup>2</sup> 36N/mm <sup>2</sup> ) ・混和剤など：減水剤 防錆剤 ・粗骨材：川砂利 砕石 ・その他( ) ・細骨材：川砂 山砂 ・その他( ) ・コンクリートの供給：レディーミックスコンクリート 現場コンクリート ・その他( ) ・水セメント比：65%/wt以下 70/wt ・その他( ) ・塩化物規制：0.3kg/コンクリートm <sup>3</sup> 以下 0.3kg/m <sup>3</sup> 以下 0.6kg/m <sup>3</sup> ・スランプ値：上部躯体 19cm 基礎・地中梁 15cm
2. 軽量コンクリート (構造用)	・粗骨材：人工軽量骨材 ●その他( ) ・細骨材：人工軽量骨材 ●その他( ) ・設計基準強度：18N/mm <sup>2</sup> 21N/mm <sup>2</sup> ●その他( ) ・気乾比重：1.8以下 ●その他( )
3. 寒中コンクリート	・適応期間：年 月 日～年 月 日
4. 無筋コンクリート	・土間コンクリート：Fc= N/mm <sup>2</sup> ・防水押え床かさ上げコンクリート：Fc= N/mm <sup>2</sup> スランプ15cm以下とする。
⑤ 軽量コンクリート (非構造用)	●基準強度：9N/mm <sup>2</sup> 13.5N/mm <sup>2</sup> ●その他( ) ・気乾比重：1.8 1.2 1.1 ●その他( ) ●粗骨材：火山砂利又は石灰ガラ ●人工軽量骨材 ●その他( ) ●細骨材：川砂 山砂 海砂 ●その他( )
6. 型枠	・材料：合板(厚12m/m) 緑甲板(厚 m/m) 金属製型枠パネル ●その他( ) ・工法：ポルト式 ●その他( ) ・剥離材：使用不可 使用可( ) ・存置期間：建設省告示等110号による。 ・打放しコンクリート仕上りのかぶり厚増：25m/m ●その他( )
7. 試験	・採集した試験体は工事現場等、請負業者の直接管理下にある場所に保管する。 ・コンクリートの圧縮強度試験は、公認の試験所に於て行うことを原則とする。
⑧ 運搬及び打込	・コンクリート打込に先立ち、設計、施工条件を十分考慮の上適切な施工計画書を作成し、係員の承認を受けるものとする。

## 06 鉄筋工事 (構造図において明記のあるものはそれに従う)

1. 一般事項	●鉄筋の使用範囲は、構造設計図による。 ●鉄筋の継手及び補強筋等については共通仕様書の他、構造設計図記載の基準詳細図等を優先とする。 ●鉄筋の加工、組立に際しては、予め鉄筋加工図を製し、係員の承認を受ける。
2. 材料	・普通鉄筋：SR235(規格品・6φ) ・異形鉄筋：SD295A(規格品・D10-D16) SD345(規格品・D19-D25) SD390(規格品) ●その他( ) ・種類：ガス圧縮継手(16φ以上 19φ以上) 重ね継手 アーク溶接継手 ●その他( )
3. 継手	・種類：●金属製 ●モルタル製 ●塩ビ製 ●その他( )
4. 鉄筋スパーサー	

## 07 鉄骨工事 (構造図において明記のあるものはそれに従う)

① 一般事項	●使用範囲及び区分は、構造設計図による。 ●鉄骨の継手、仕口及び補強部分その他については、共通仕様書の他に構造設計図記載の、基準詳細図等を優先する。 ●工作図または、現寸図(型板および定義を含む)を作成し、係員の検査を受ける。
② 普通鋼	●形鋼・鋼板：SS400 SS490 SM400A/B/C SM490A/B/C SM490Y/B ●その他(SN400A/B SN490B ) ●軽量形鋼：SSC400(規格品) ●鋼管：STK400 STK490 ●その他( ) ●高力ボルト：F8T S10T F12T ●普通ボルト：SS400とし等級は中ボルト程度とする。 ●リベット：SV400A(規格品) ●溶接材料：JIS-Z-3211規格に適合するもの。 ●防錆塗装：素地調整の程度 /第一種ケレン(プラスチック) ●第二種ケレン(機械的作業) ●第三種ケレン(手工作業) ： 錆止塗装は、仕上塗装種別に応じた同系錆止塗料とする。 ： 塗装回数、工場1回、現場1回、但し組立後塗装不可能な部分は、工場2回塗りとする。 ・仕上塗装：オイルペイント グラファイトペイント ●その他( )
3. 耐候性高張力鋼	●鋼材：SPA H/C SMA400A/B/C SMA490A/B/C ●その他( ) ●高力ボルト：F8T F10T F12T ●使用材料：裸使用 表面処理 ウェザーコートI ウェザーコートII ●その他( ) ●溶接材料：JIS-Z-3212規格に適合するもの。
④ 工法	●ボルト工法 ●溶接工法(アーク溶接) ●その他( )
⑤ 溶接部の試験	●試験の種類：超音波深備試験 ●X線検査 ●その他( )
⑥ 溶接工の枚量確認	●行う ●行わない
7. 試作品	●必要 ●不必要

## 08 組積工事 (構造図において明記のあるものはそれに従う)

1. コンクリートブロック	・種別：A種 B種 C種 ・厚さ：100m/m 120m/m 150m/m 190m/m ・補強鉄筋：縦筋D10@400m/m 横筋D10@600m/m 間講補強筋D13
2. 煉瓦(レンガ)	・種別：普通 耐火 焼過ぎ ・使用箇所：化粧 塗下 防水押え 煙道 ●その他( )
3. ALC版	・形状・寸法：外壁 m/m 間仕切り壁 m/m 床版 m/m 屋根板 m/m ・目地シーリング材：弾性(ポリサルファイド系 シリコン系 ポリウレタン系) 塑性(アクリル系 プチル系) 油性 ●その他( ) ・取付金物：SS400を原則とし、垂鉛メッキ処理を原則とする。
4. プレキャストコンクリート	・本工事は、事前に指定製作所に於て設計図及び仕様書に基づき予め製作、組立工法の詳細について、施工図及び施工計画書を提出し、係員の承認を受けた後工事に着手する。 ・コンクリートの種別：軽量コンクリート(構造用) 普通コンクリート ・混和剤の有無：必要 不必要 ・コンクリートの強度：kg/cm <sup>2</sup> ・型枠：木製 金属製 ●その他( ) ・シーリング材：ポリサルファイド系 ●その他( ) ・取付金物の防錆処理：シンクロメートメッキ処理 垂鉛メッキ処理 ●その他( ) ・現寸試作品 必要 不必要

## 09 防水工事

① 一般事項	●本工事は、すべて責任施工とする。
2. アスファルト防水	・種別：歩行用屋上防水 露出屋上防水 室内防水 ●その他( )
3. シート防水	・種別：合成ゴム系シート防水 厚 1.2m/m 合成樹脂系シート防水 厚 m/m ●その他( )
④ 塗布、塗膜防水	・種別：ウレタン塗布防水 厚 m/m ゴムアスファルト塗布防水 厚 m/m ●その他(ウレタン塗膜防水 X-2 平場・立上り共 )
5. モルタル防水	・種別：セメント系 樹脂系 ●その他( )
6. 止水板	・地下階コンクリート打継ぎ箇所止水板：不要 必要：クロロプレン合成樹脂
7. 目地押さえ伸縮目地	・目地材料：エラストイト+アスファルトコンパウンド (巾 m/m) 発砲樹脂板+アスファルトコンパウンド (巾 m/m) ●その他(アスファルトコンパウンドは防水押え仕上り面より5m/m下りに充填しエラストイト以外の目地棒は必ず撤去する。)
⑧ 責任保証	●工事請負者及び施工社は記名捺印の上、下記保証期間の保証書を3部係員に提出するものとし、事故が生じた場合は無償にて補修復旧するものとする。 ・アスファルト防水：10年間 ・シート防水：10年間 ・塗布防水：10年間 ・モルタル防水：5年間 ●その他(ウレタン塗膜防水 10年 ) ●外部建具廻り：●ポリサルファイド系 ●ポリウレタン系 ●油性系 ●シリコン系 ●その他( ) ・コンクリート打継目地：ポリサルファイド系 ●ポリウレタン系 ●油性系 ●シリコン系 ●その他( )
⑨ シーリング材	●充填は 10m/m× 10m/mを最小とする。バックアップ材を使用するものとし、発砲樹脂成型材とする。

## 10 石工事

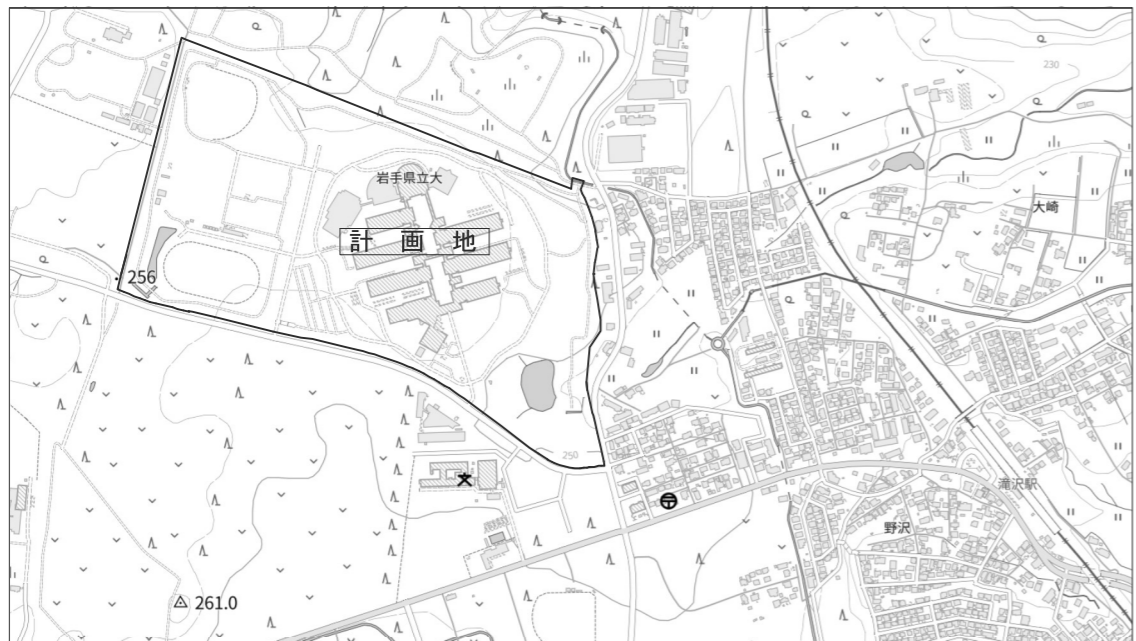
1. 一般事項	・石材は、傷、腐れ又は亀裂を生じる恐れのある筋や欠点の少ないものとし、色、仕上面の材質はサンプルにより指定する。 ・つなぎ金物の太柄、カガキ、干切類は防錆処理を施した鋼又は、真ちゆう製とする。 ・仕上げの種類は次の記号を用いる。A=本磨き B=水磨き C=粗磨き D=小肌 E=ひき肌 F=フランジ開き G=割肌
2. 材料	・大理石：国産 外国産 板厚 m/m 仕上げ ・花崗岩：国産 外国産 板厚 30m/m 仕上げ ・その他：国産 外国産 板厚 30m/m 仕上げ ・テラスローブロック：粗石 厚 m/m 仕上げ





計画対象棟

配置図 S=1/3000



案内図 S=N/S

防火材料等認定番号

材 料	認定番号
PB t=9.5	準不燃 QM-9828
PB t=12.5	不燃 NM-8619
硬質PB t=9.5、12.5	不燃 NM-9645
化粧PB t=9.5	準不燃 QM-0524
不燃化粧PB t=9.5	不燃 NM-1864
EP	不燃 NM-8585
ビニルクロス (SG-552同等)	PBを含む不燃下地 不燃NM-1223 準不燃下地 準不燃QM-9363
直貼ロックウール吸音板t9 (ソラトライト同等)	不燃 NM-8599
ケイカル板t6、t8	不燃 NM-1217

内部仕上表 (特記なき限り新設工事)

	階別	室名	設計FLからの仕上高	床		巾木		壁		天井		見切縁	天井高	内装制限	その他
				下地	仕上	仕上	H	下地	仕上	下地	仕上				
改修前	2F	厨房	±0	RC+嵩上げコンクリートt300 アスファルト防水立上りH=1000	100角磁気質タイル貼 (撤去)	—		RC H=1000以上: LGS+ケイカル板t8 H=1000まで: RC (撤去)	100角磁気質タイル貼 (一部撤去) 一部 SUS HL (一部撤去) 柱: VE塗装 (残置)	LGS (吊りボルト、ハンガー 金物残置 野縁受、野縁撤去)	ケイカル板目透し貼t8+ VE塗装 (撤去)	塩ビ (撤去)	2600	不燃	カウンター: 人工大理石 (一部撤去) 排水溝 (側溝残置、グレーチング蓋撤去) グリーストラップ (設備図による) 吊戸棚 (撤去)、照明BOX (撤去)
		食品庫	±0	同上	同上	同上		同上	100角磁気質タイル貼 (一部撤去)	同上	同上	同上	同上		
		冷蔵庫		既製品	—	—		—	—	—	—	—			
		冷凍庫		既製品	—	—		—	—	—	—	—			
改修後	2F	厨房	±0	既存嵩上げコンクリート (一部はつり) アスファルト防水立上りH=1000 (既存のまま)	塩ビシート (新設)	塩ビシート巻上 (新設)	200	RC (既存のまま) LGS+耐水PB12.5+ケイカル板t8 (新設)	100角磁気質タイル貼 (既存補修) 一部SUS HL (既存) 柱、新設間仕切、改修RC壁: EP塗装	LGS (野縁受、野縁新設)	ケイカル板目透し貼t8+ EP塗装 (新設)	塩ビ (新設)	2600	不燃	カウンター: SUS (新設) 排水溝 (グレーチング蓋新設) グリーストラップ (設備図による)
		食品庫	±0	同上	同上	同上		同上	100角磁気質タイル貼 (既存補修)	同上	同上	同上	同上		
		冷蔵庫		既存のまま	—	—		—	—	—	—	—			
		冷凍庫		既存のまま	—	—		—	—	—	—	—			

1. 仕上

- (1)床
- ・アスファルト防水範囲は既存のままとする
  - ・厨房内の長尺塩ビシートはHACCAP対応仕様とする
- (2)幅木・腰壁
- ・巾木: 水回りの巾木は巻き上げ (H=200) とし、天端を見切り縁 (塩ビ既製品同等) で押える
- (3)壁
- ・一般間仕切壁は特記無き限り、天井下地材までとする
  - ・PBは、壁の場合はVカットボード、天井の場合はジョイントボードを使用、ジョイント部には寒冷紗を張り平らに仕上げる
  - ・乾式間仕切壁に使用するスタッドの形式及びサイズは建仕14.5.1表による
  - ・ケイカル板のジョイントはジョイントレスとする
  - ・厨房内は上貼りを耐水PBとする

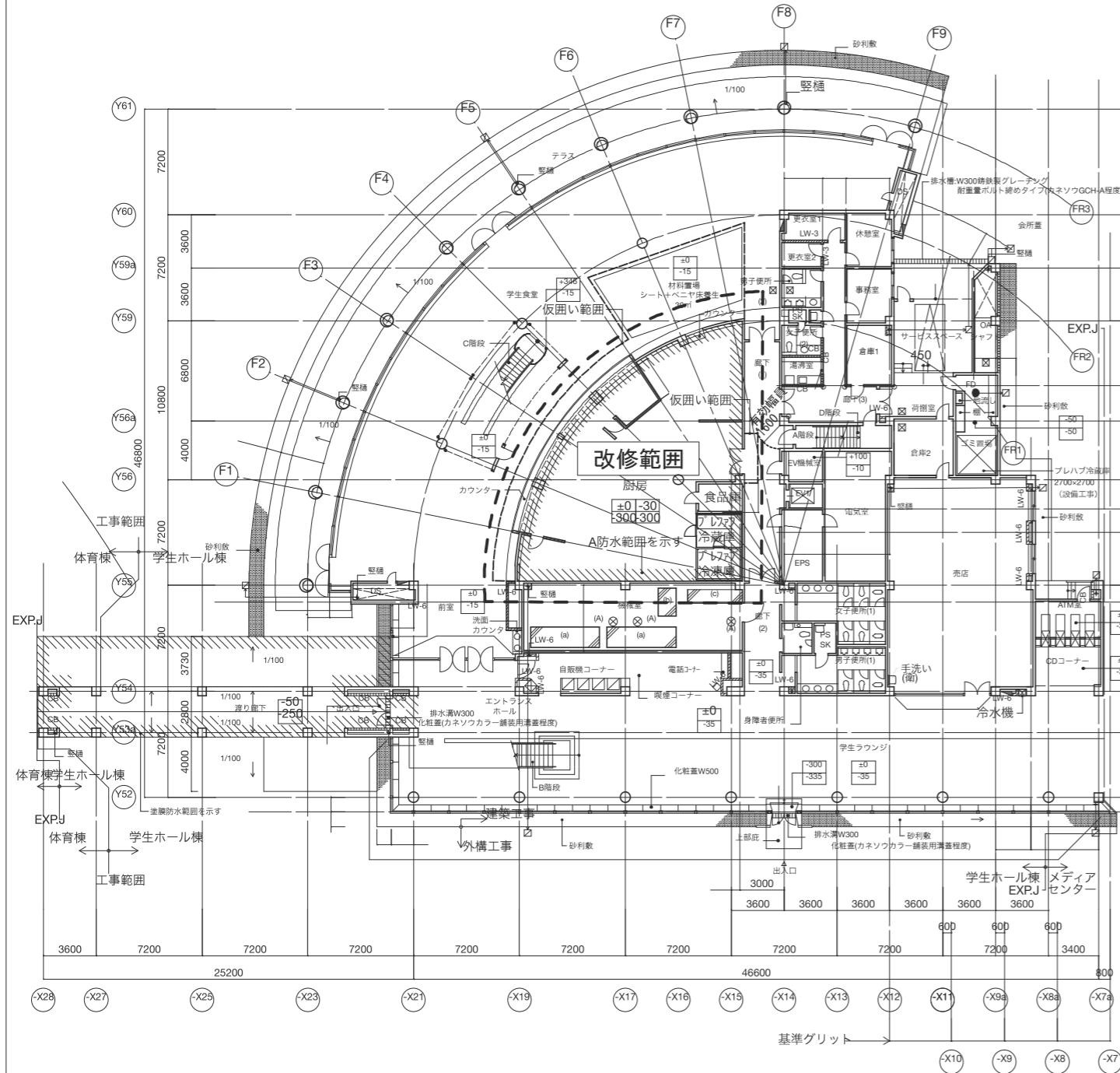
(5)天井

- ・天井下地: LGS25型下地
- ・廻縁 (一般部)  
壁、天井共塗装仕上の場合: 入隅目地無工法  
(コーナーフィニッシャー使用)  
壁、天井共クロスの場合: 差し込み隠ぺい型  
(クロスフリーJF3N入隅/フクビ同等)  
上記以外は、塩ビTバー型廻縁を設ける

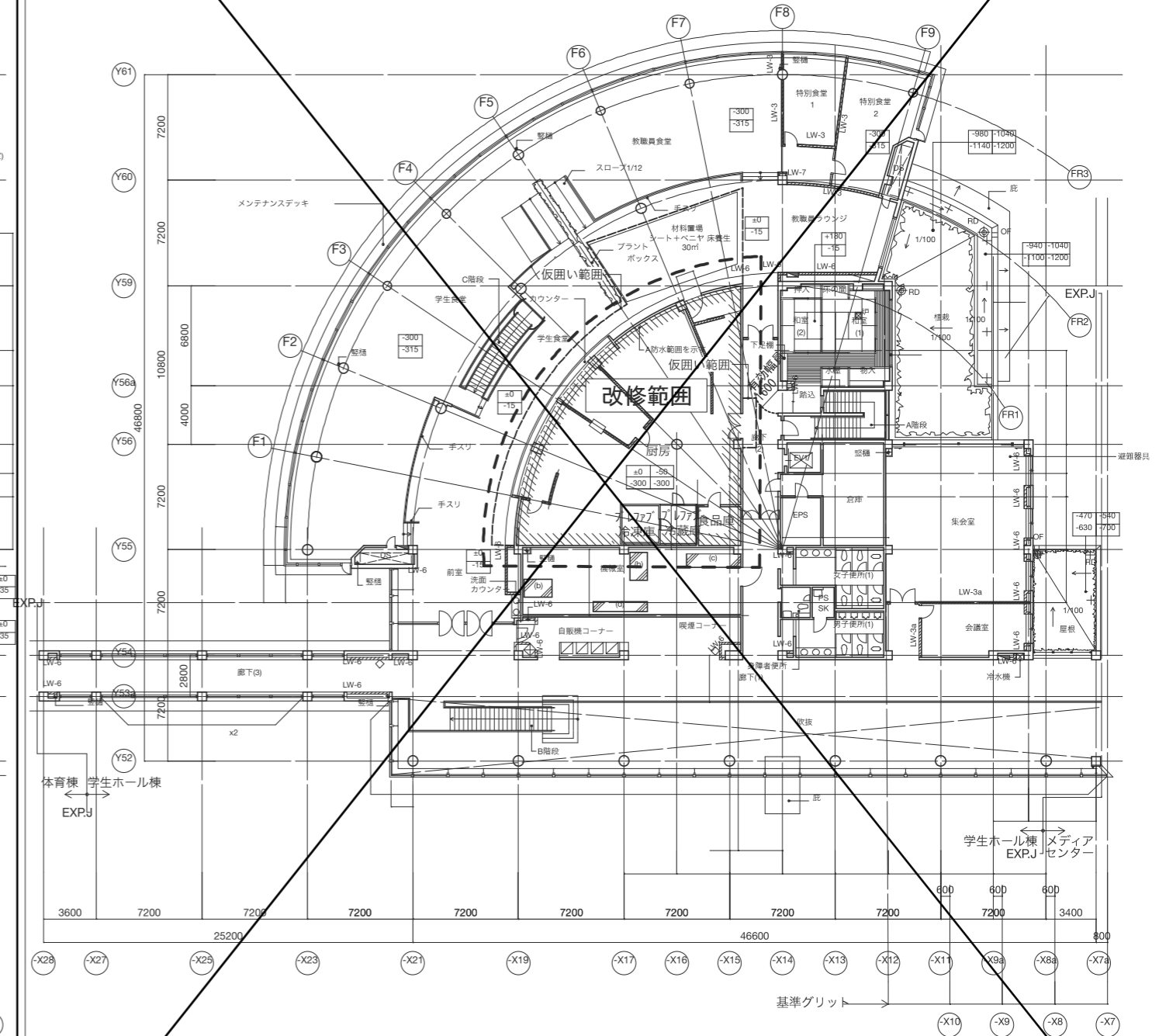
2. 内装制限

- ・内部仕上表で (不燃) とある室の下地ボード類については、壁天井とも認定不燃材料を使用し、その他の室は準不燃材料を使用する
- ・ただし、防煙壁・防煙垂れ壁は不燃とする
- ・内部仕上表の壁及び腰壁の下地については特記なき限り下記の優先順位に従う
  - 1) 防火区画、防火上主要な間仕切り、遮音間仕切り等の性能を求められるもの (法チェック図、平面詳細図による)
  - 2) 仕上表の内装制限

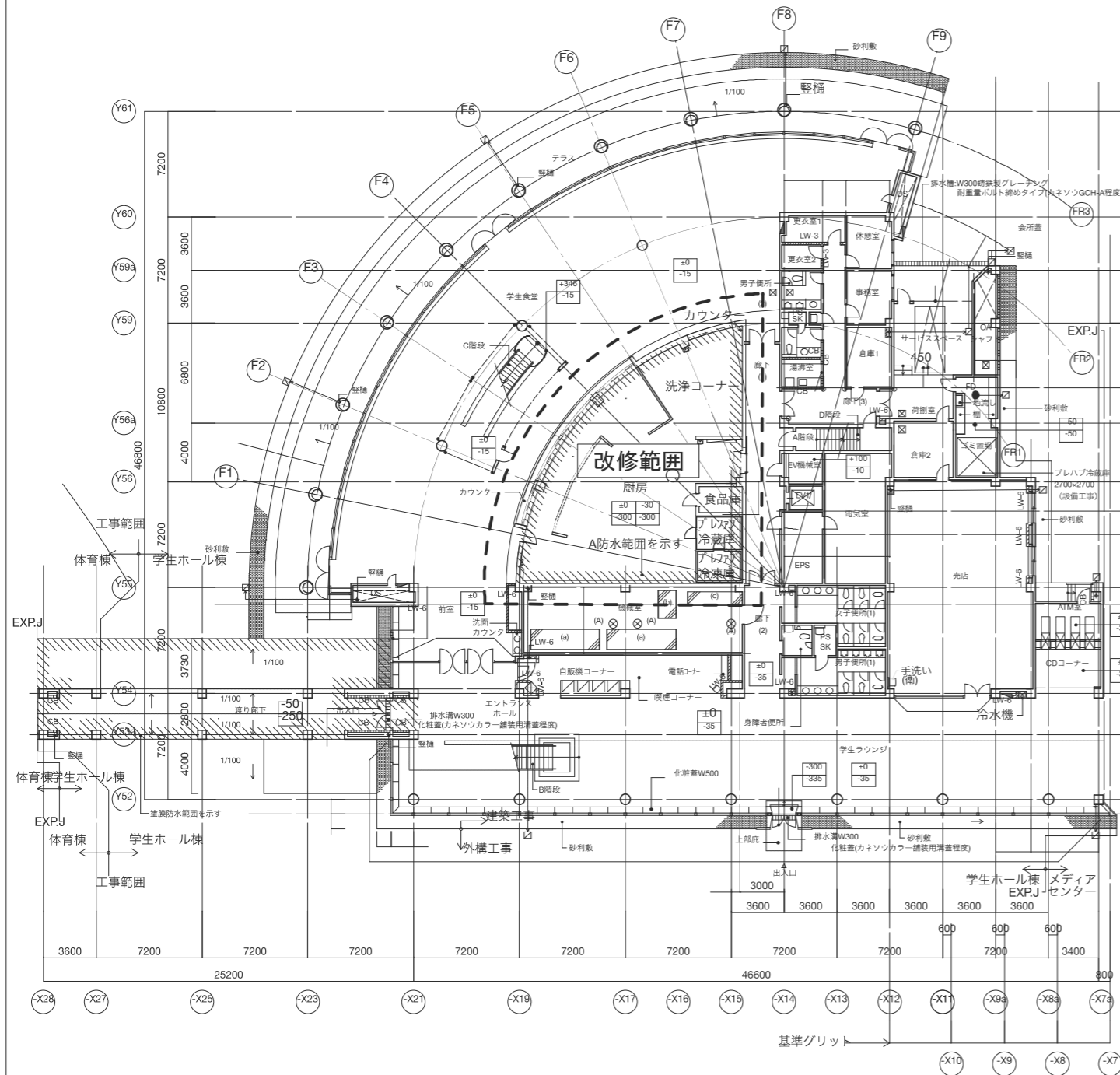
- ・シックハウス関連法令に関し、内部に使用する建材 (家具も含む) は全てF☆☆☆☆ (規制対象外) を使用し、MS DSの確認を行う接着剤も同様とする
- ・シックハウス関連法令に関し、天井裏の下地等にはF☆☆及びF☆☆を使用しない



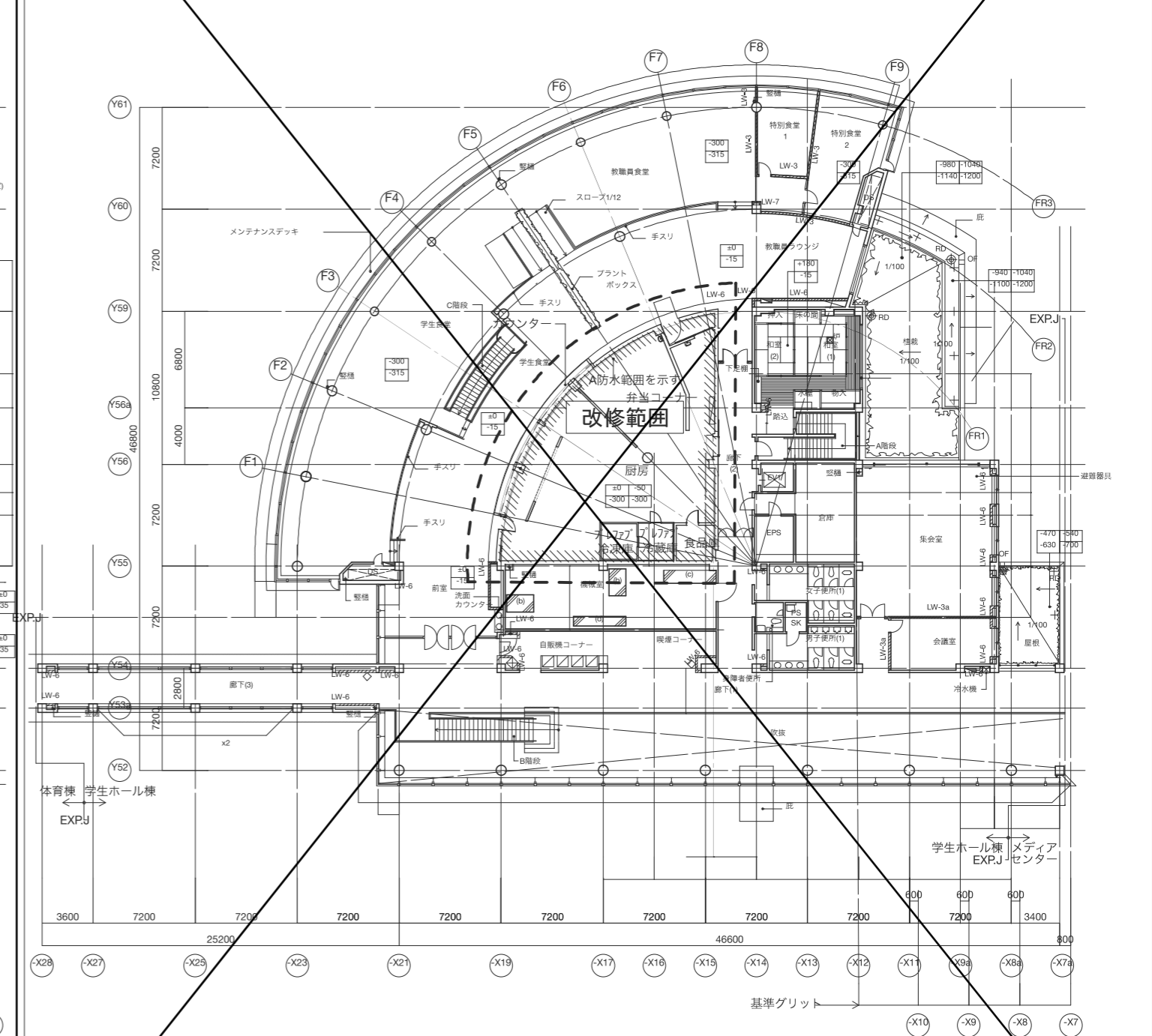
2階平面図



3階平面図

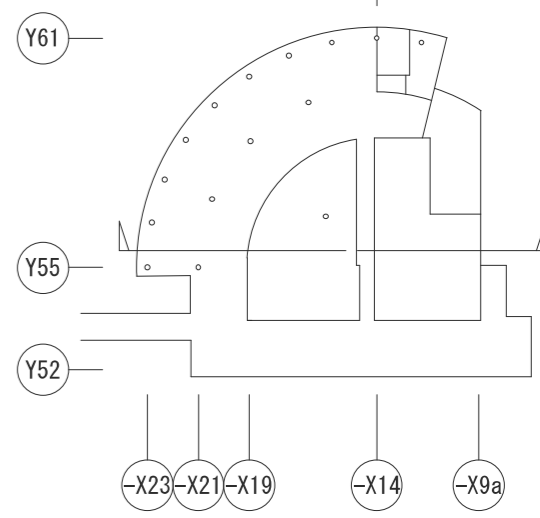


2階平面図



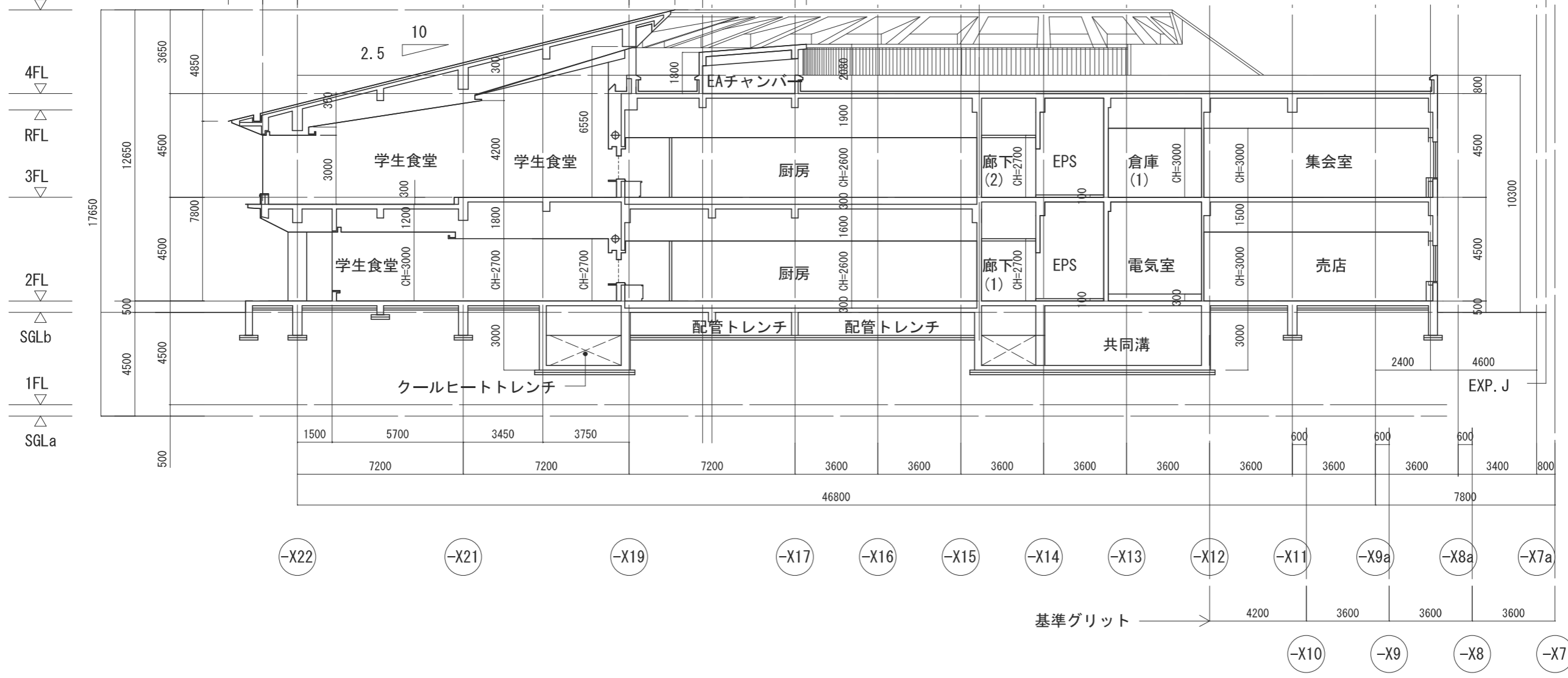
3階平面図

キープラン



EXP. J  
学生ホール棟 メディアセンター

最高高さ=SGLa+17650  
(最高高さ=SGLb+13150)



基準グリット  
4200 3600 3600 3600  
-X10 -X9 -X8 -X7





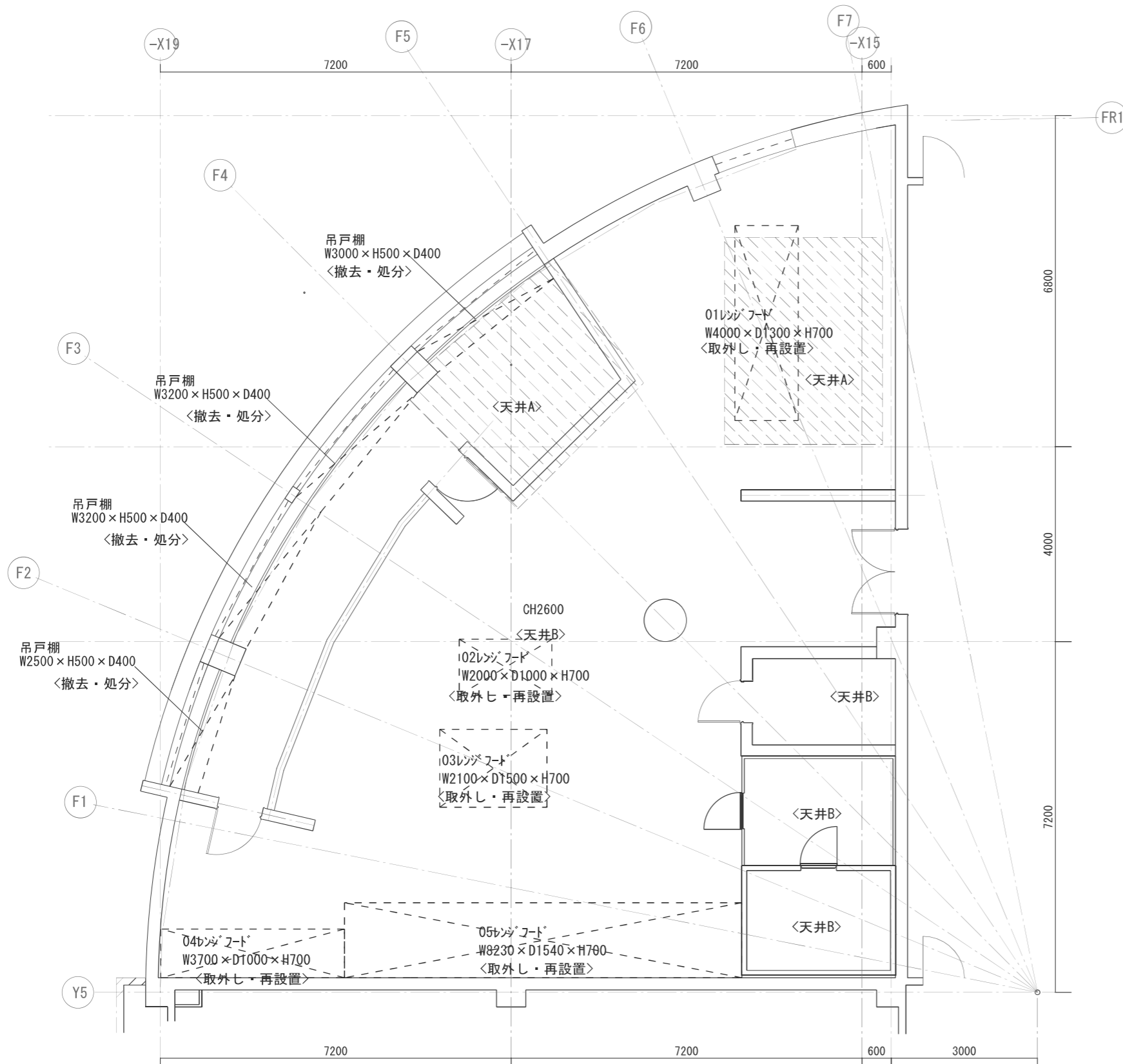
記号 × 数量	SD 201 ×2	鋼製片開き戸	SD 203 ×1	鋼製両開き戸	SD 202 ×1	鋼製片開き戸	特 SD 204 ×1	窓付鋼製片開き戸	LSD 201 ×1	軽量鋼製片引き戸	LSD 302 ×1	軽量鋼製片引き戸	特 SW 201 ×3	ステンレス枠
	撤去		撤去		改修		新設	特定防火設備	新設		改修		新設	
姿図														
部屋名	厨房 2階 3階		厨房 2階 3階 廊下側		厨房 2階 3階 食品庫		厨房 2階 3階 学生食堂側		厨房 2階 3階 廊下側		厨房 3階 学生食堂側		厨房 2階 3階	
材質・仕上	枠:鋼板SOP 扉:鋼板SOP		枠:鋼板SOP 扉:鋼板SOP		枠:鋼板SOP 扉:鋼板SOP		枠:鋼板SOP 扉:鋼板SOP		枠:鋼板SOP 扉:鋼板SOP		枠:鋼板SOP 扉:鋼板SOP		枠:ステンレス製	
枠見込													壁厚+20	
ガラス/ガラリ							PYP6.5							
金物・鍵の種類	ドアノブ、丁番、ドアローザー、本締り錠		ドアノブ、丁番、ドアローザー、本締り錠、フラス落とし		ドアノブ、丁番、ドアローザー、本締り錠		レバーハンドル、丁番、ドアローザー、本締り錠		引手、上吊り引戸用金物(ワトコス付)、引戸錠		引手、引戸用金物			
内枠・額縁														
備考	扉、枠:撤去		扉、枠:撤去		扉、枠:塗装やり変え 金物、鍵:既存調整						扉、枠:塗装やり変え 金物、鍵:既存調整			
記号 × 数量	特 SS 201 × 1	防火シャッター	特 SS 202 × 1	防火シャッター	特 SS 203 × 1	防火シャッター								
	撤去		新設	特定防火設備	新設	特定防火設備								
姿図														
部屋名	厨房 2階 下膳カウンター		厨房 2階 下膳カウンター		厨房 2階 3階 廊下側									
材質・仕上														
枠見込														
ガラス/ガラリ														
金物・鍵の種類														
内枠・額縁														
備考	扉、枠:撤去		部分詳細図(4)参照		部分詳細図(5)参照									

特記

- ・特記なき限り、両面フラッシュ扉を標準とする。
- ・特記なきSDの枠見附は25mmとする。
- ・引手はストッパー付とする。
- ・把手の取り付け高さは既存合わせとする。

凡例

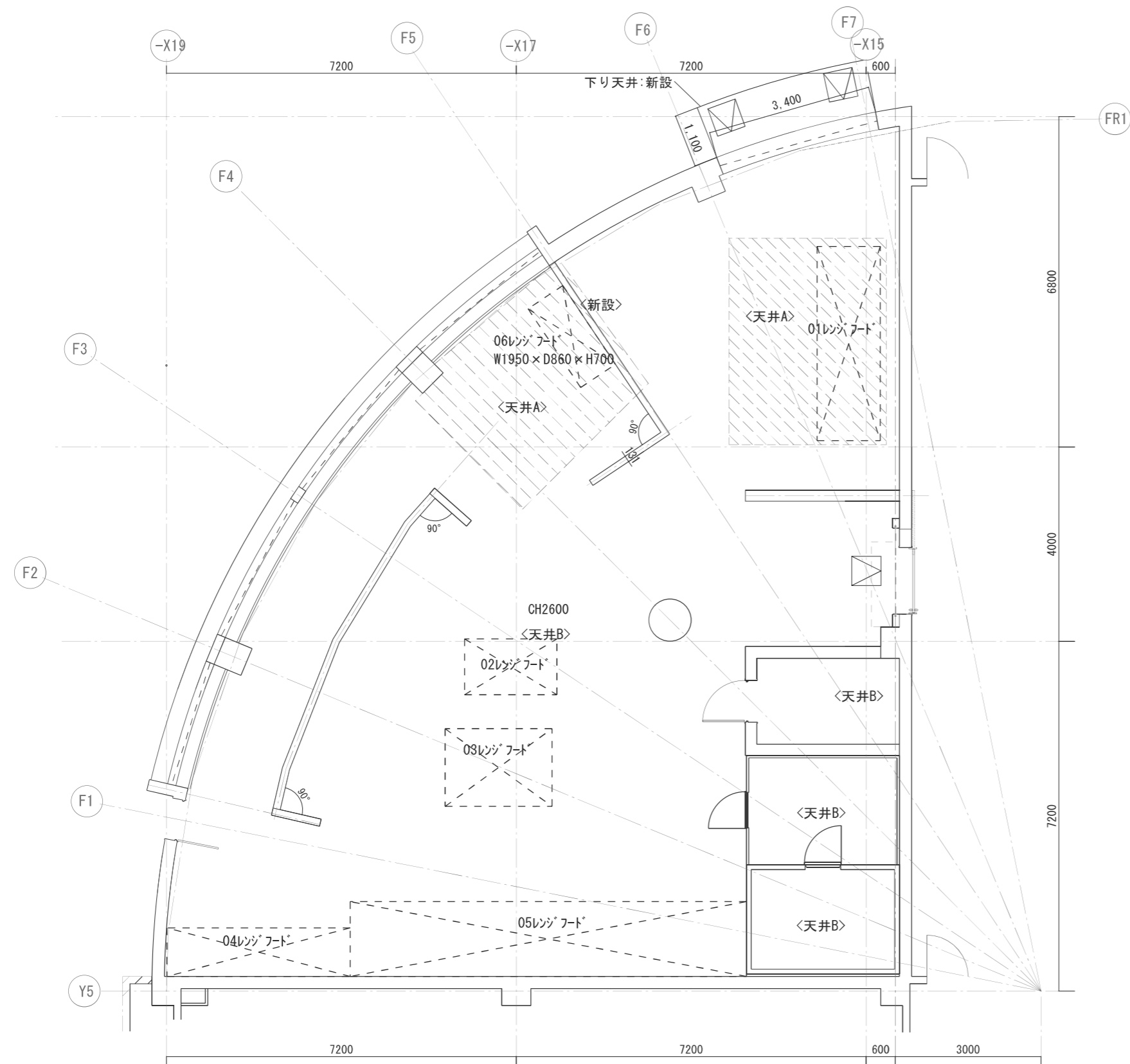
- FL : フロートガラス
- F : 型ガラス
- ST : 学校用強化ガラス
- PW : 網入ガラス
- PYP : 耐熱強化ガラス
- ▽ : 連窓方立を示す



改修内容  
 天井：  
 (A) 下地一部残しの上ケイカル板+塗装  
 (B) 現状のまま

2F レンジフード			
01	W4000 × D1300 × H700	既設	取外し・清掃の上再設置
02	W2000 × D1000 × H700	既設	取外し・清掃の上再設置
03	W2100 × D1500 × H700	既設	取外し・清掃の上再設置
04	W3700 × D1000 × H700	既設	取外し・清掃の上再設置
05	W8230 × D1540 × H700	既設	取外し・清掃の上再設置
06	W1950 × D860 × H700	新設	

凡例	
	レンジフード
	天井点検口



改修内容

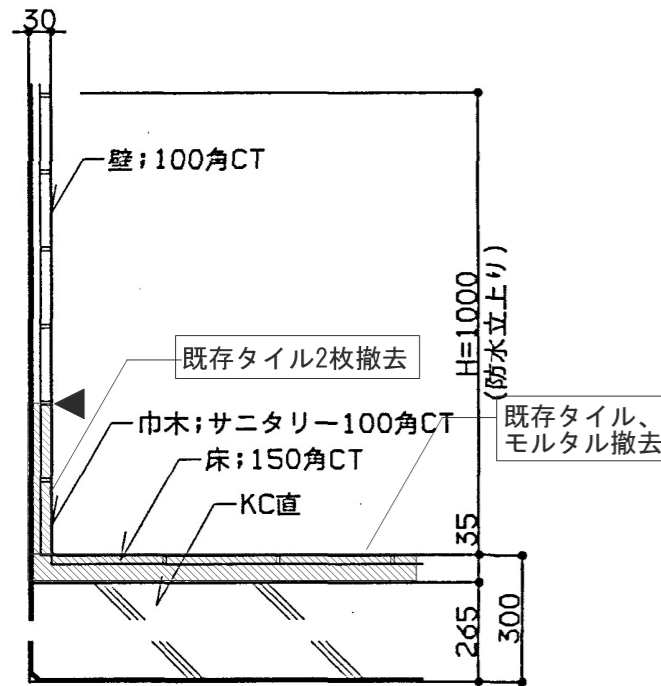
- 天井：  
 (A) 下地一部残しの上ケイカ板+塗装  
 (B) 現状のまま

2F レンジフード			
01	W4000 x D1300 x H700	既設	取外し・清掃の上再設置
02	W2000 x D1000 x H700	既設	取外し・清掃の上再設置
03	W2100 x D1500 x H700	既設	取外し・清掃の上再設置
04	W3700 x D1000 x H700	既設	取外し・清掃の上再設置
05	W8230 x D1540 x H700	既設	取外し・清掃の上再設置
06	W1950 x D860 x H700	新設	

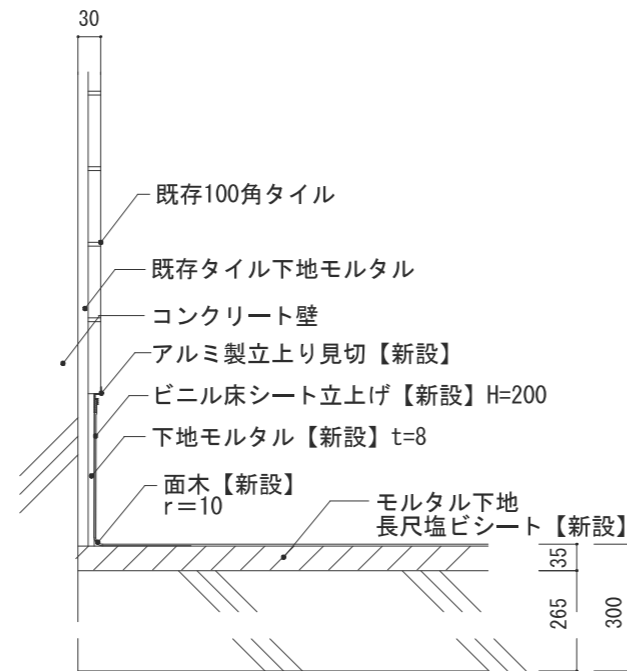
凡例	
	レンジフード
	天井点検口

<現状・撤去図>

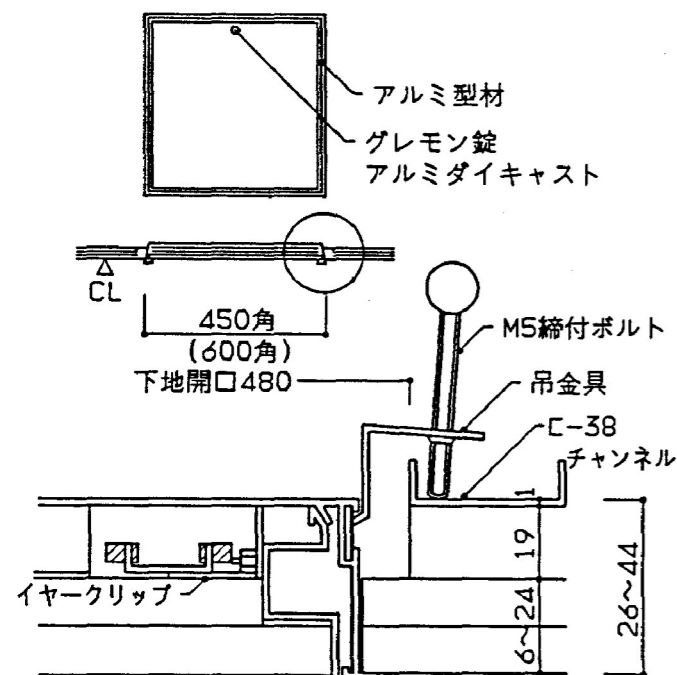
▼ カッター入れ



<改修後>

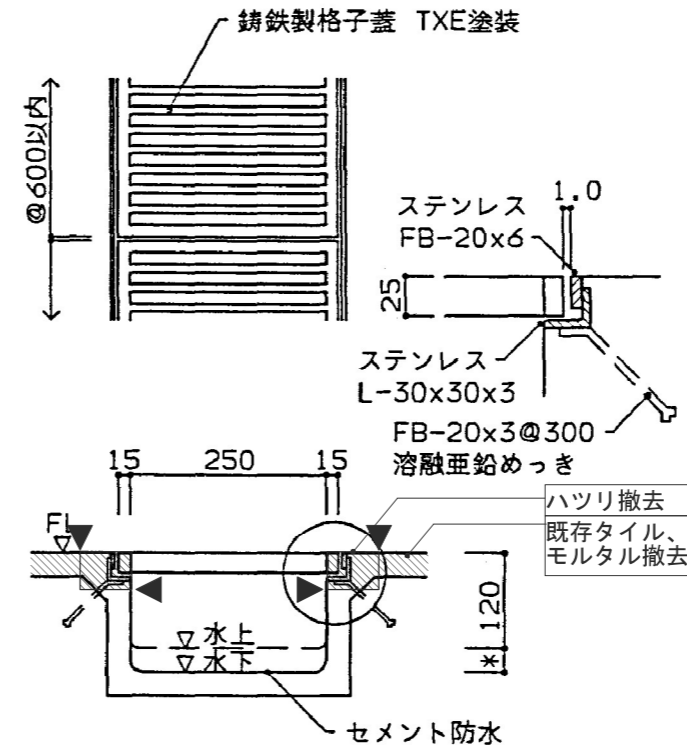


天井点検口



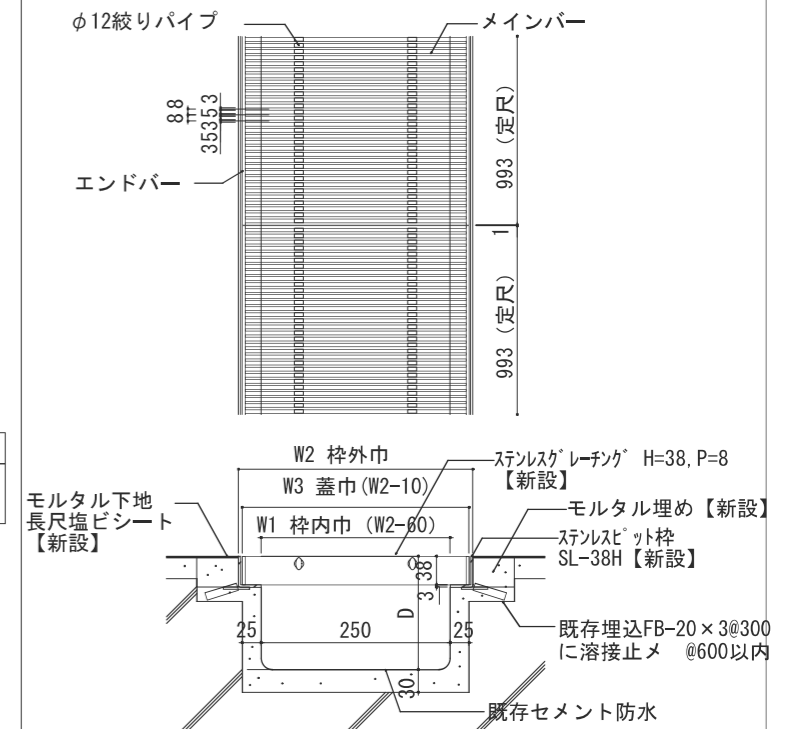
仕様 アルミ枠表面仕上  
 ・陽極酸化皮膜  
 ◎ A-BE 1.5 || 9  
 ◎ 印を適用する。

<現状・撤去図>



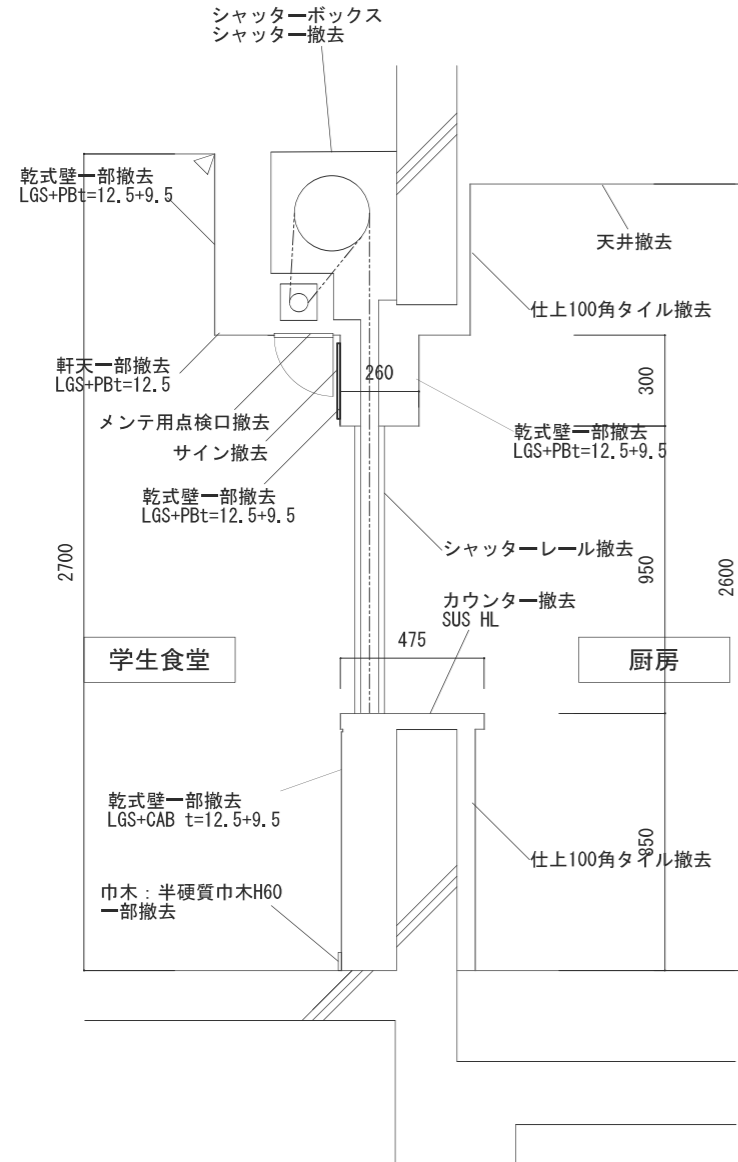
\* は別図による。 水勾配 1/100

<改修後>

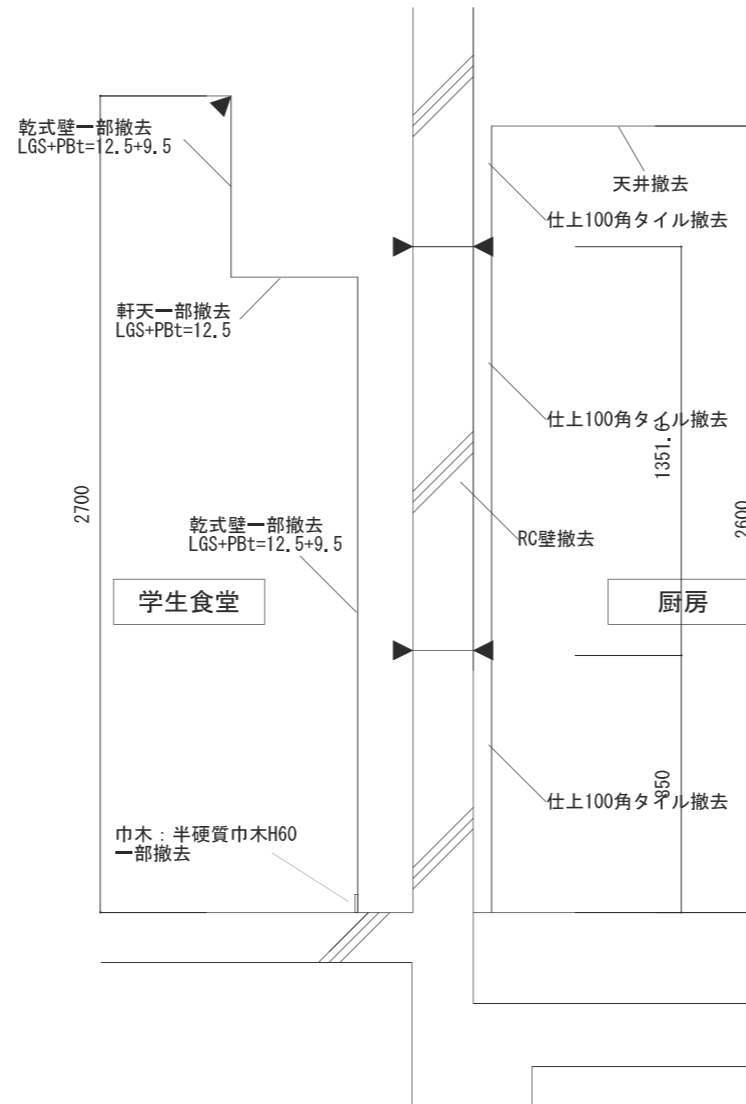


<現状・撤去図>

<改修後>

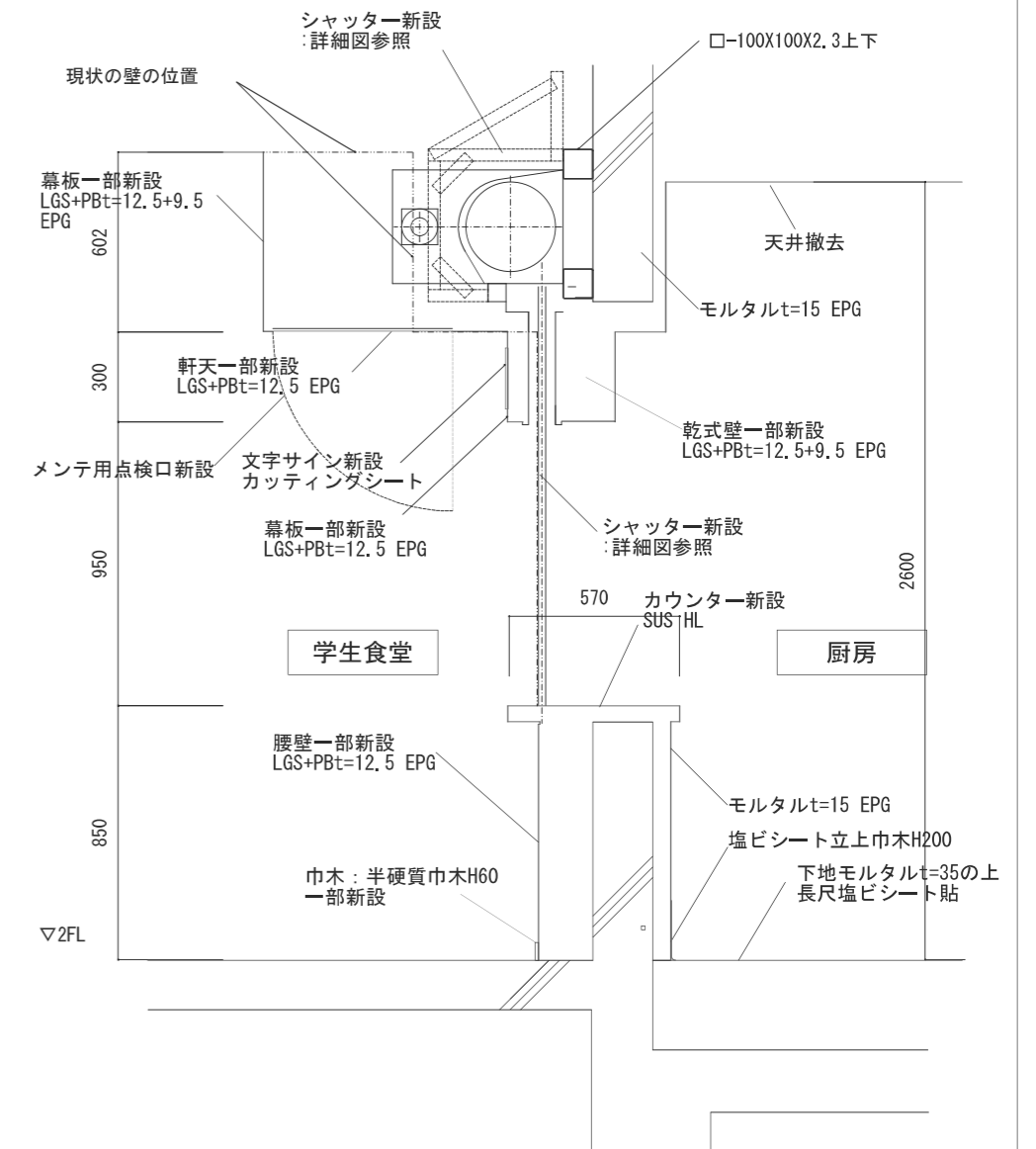


部分詳細図A



部分詳細図B

▽カッター入れ

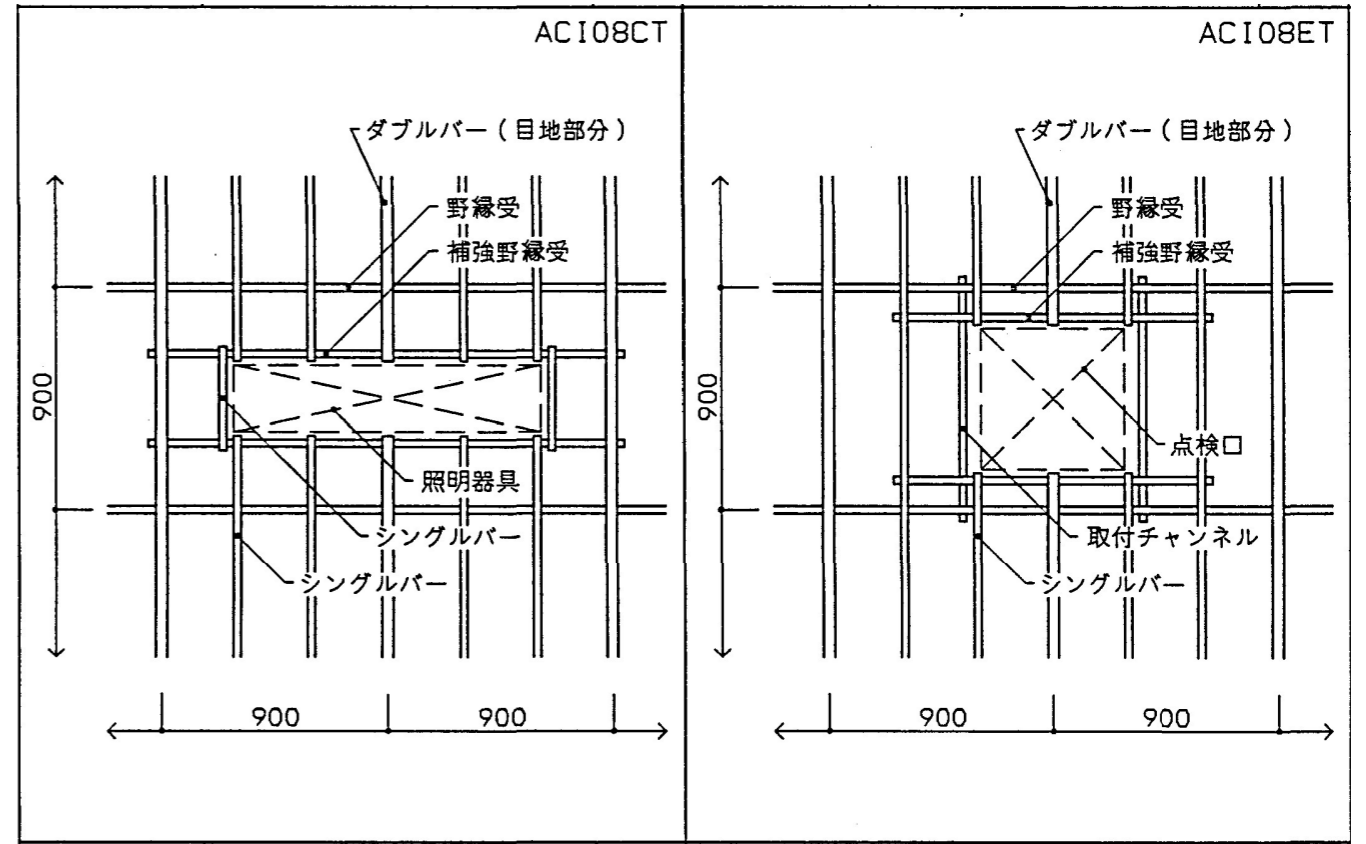


部分詳細図C

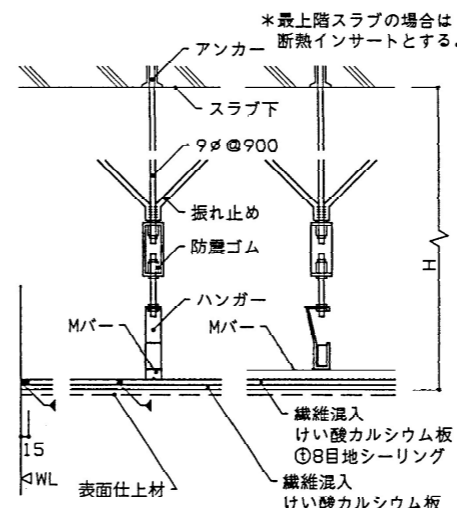
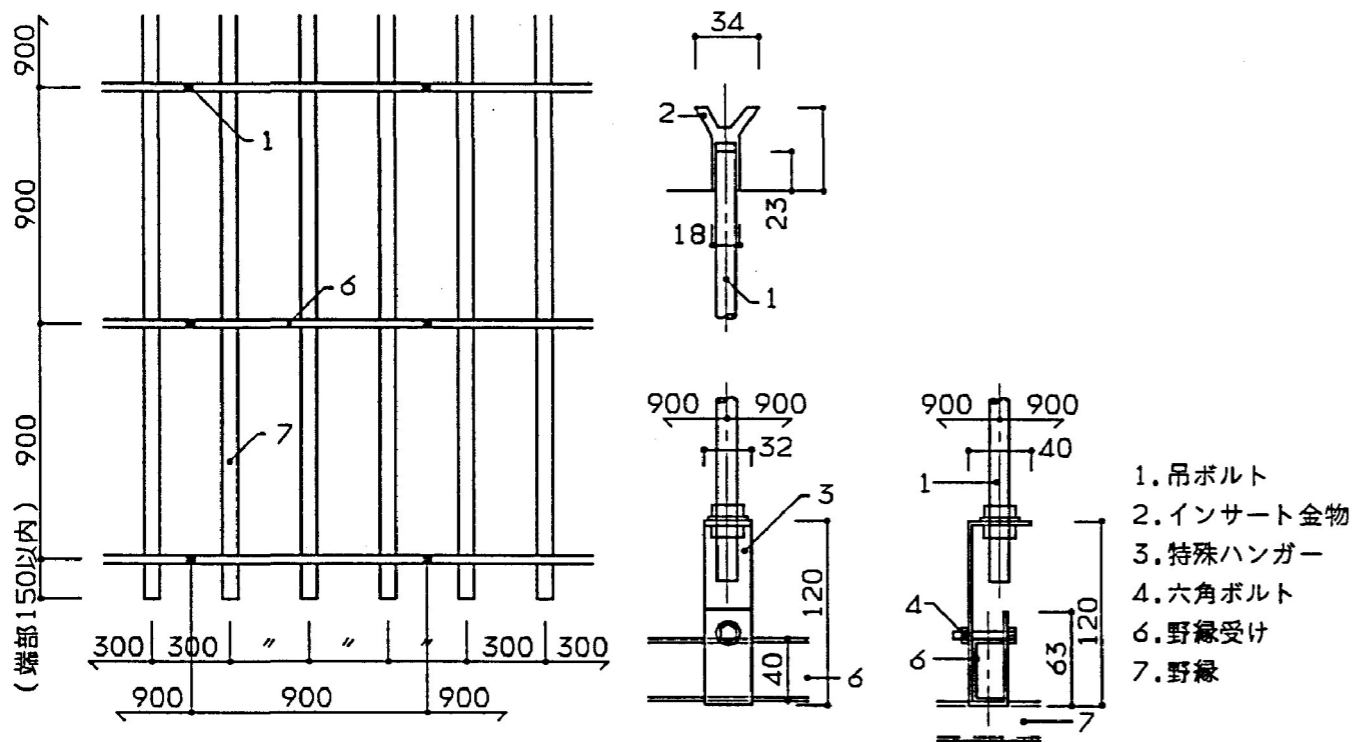
	吊りボルト	野縁(バー)受	ダブルバー(W)	シングルバー(S)	仕上材
	12φ(屋外) 9φ(室内)	亜鉛鉄板厚 1.6(屋外) 1.2(室内)	亜鉛鉄板厚 0.8(屋外) 0.5(室内)	亜鉛鉄板厚 0.8(屋外) 0.5(室内)	
捨張り用	@ 900 以下	@ 900 以下	1方向のみ @1,800	@ 300	岩綿吸音板
目地割 900x900			X,Y方向共 @900	@ 300	石膏ボード、石綿板、フレキシブル板
目地割 900x1,800			X方向@1,800 Y方向 @900	@ 300	珪酸カルシウム板、目地鉄板
直張り用			1方向のみ @300	@ 300	岩綿吸音板
吹付下地			X,Y方向共目地当り	@ 300 @ 225*	ジョイントボード張

(\*ひる石吹付の場合を示す)

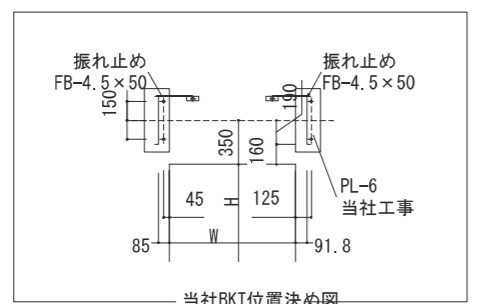
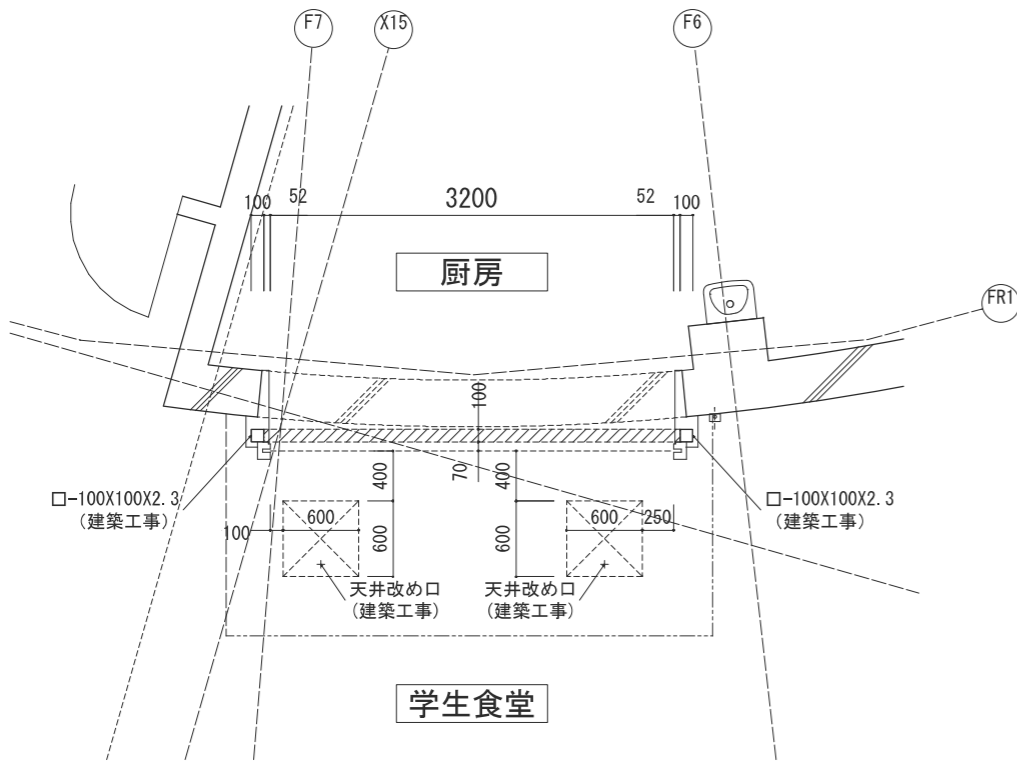
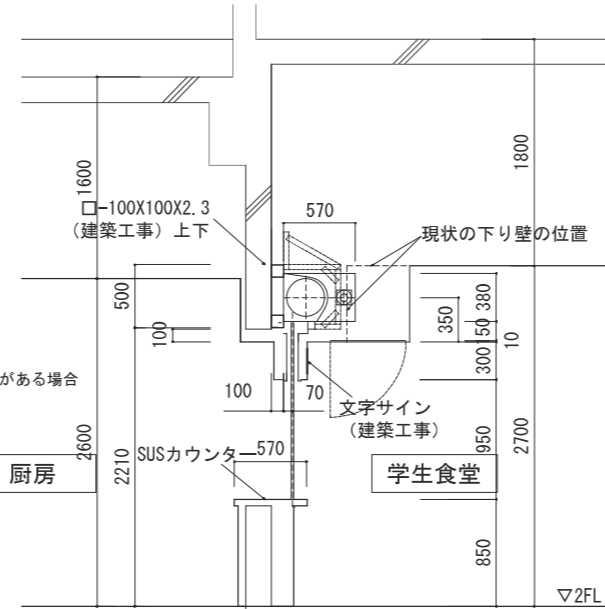
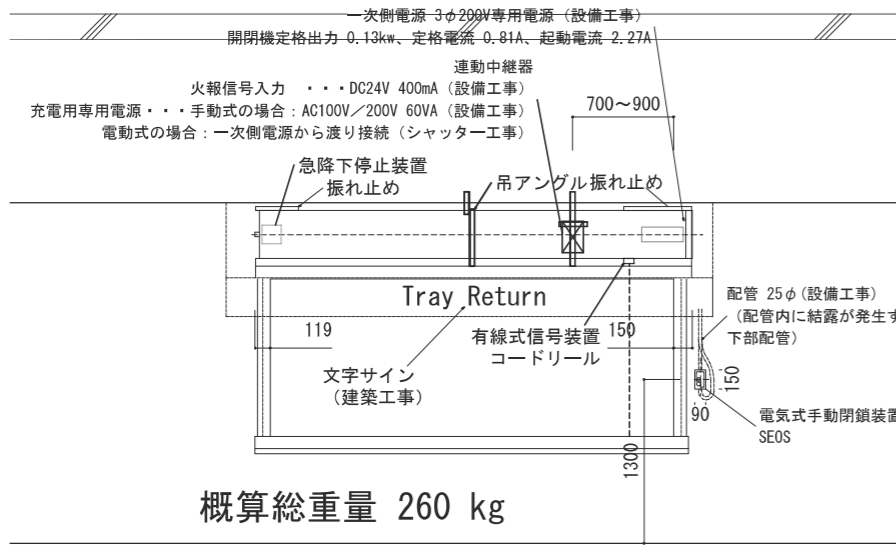
- ⑦
1. ピッチ寸法は全て以内とする。
  2. ダクト等で吊ボルト@900以上とする場合は、ダクト下に吊りボルト受けの補強材を入れること。
  3. 天井面は水平加速度0.6Gに耐える様に壁際及び天井面の補強を施すこと。
  4. 外装天井の場合 耐風圧強度は±200Kg/m<sup>2</sup>とし、ブレース、圧縮材にて補強すること。
  5. 金属製天井材の締結には、ステンレス製タップビス(φ200以内)を使用する。
  6. 異種金属と接する部分には、ジクロロメートさび止めペイント塗布のこと。



防振吊り天井

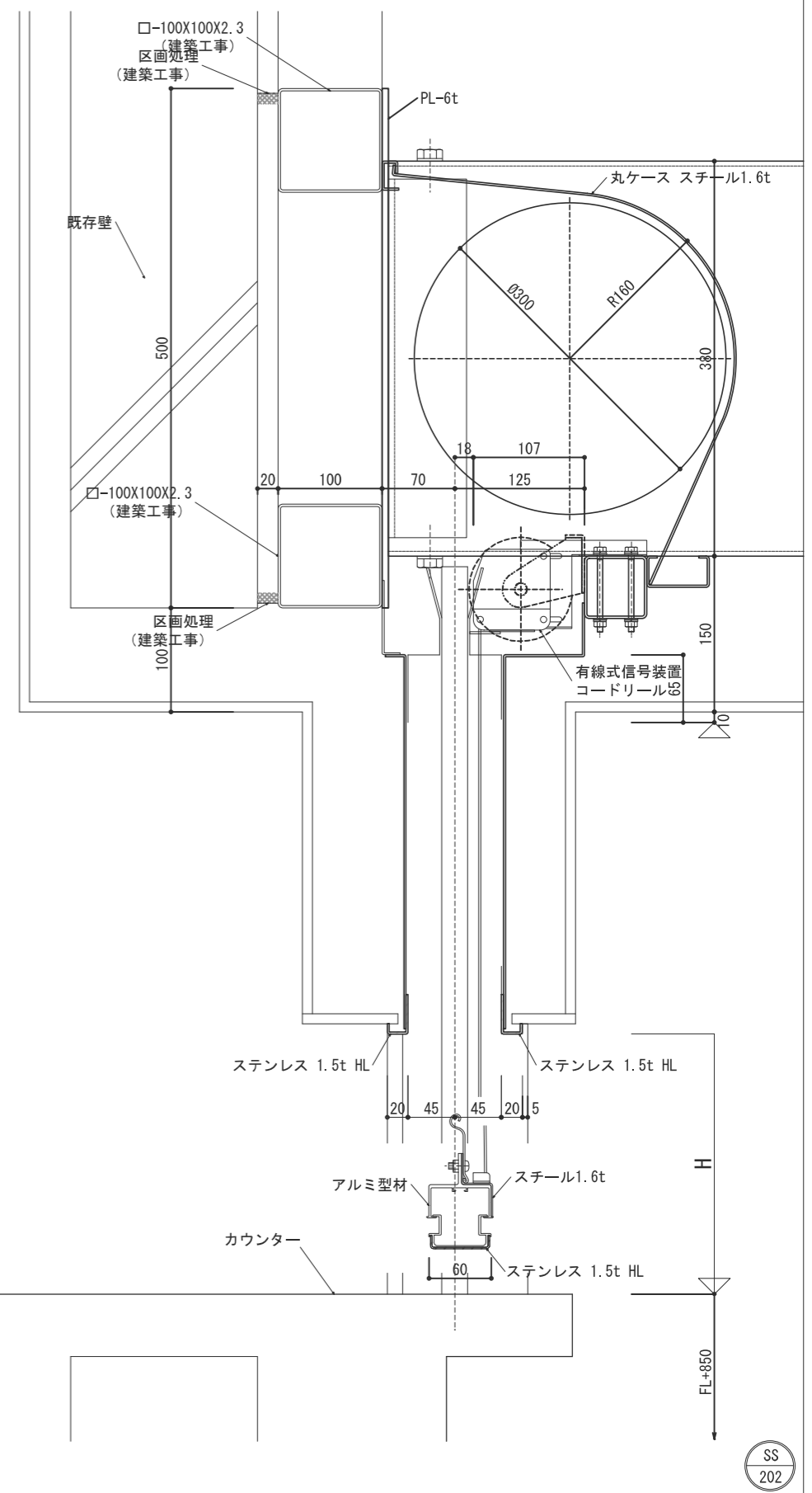
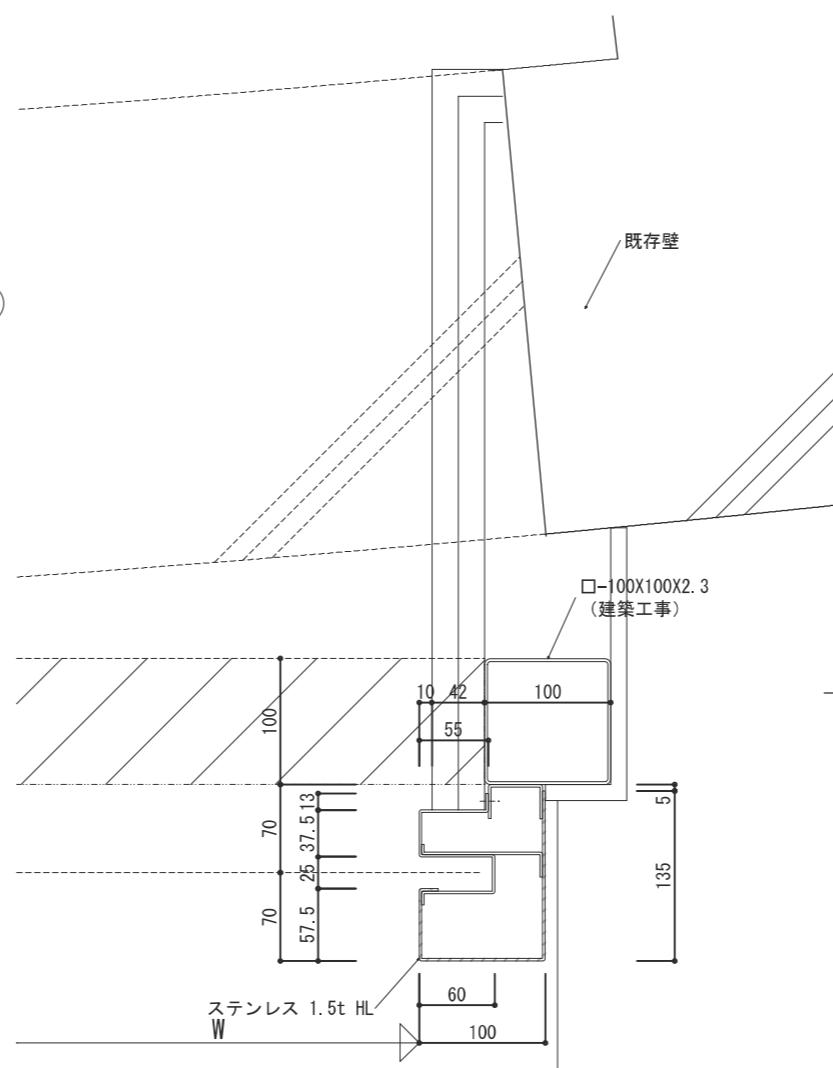


\*最上階スラブ下に使用するインサートは断熱インサートとする。



電動式防火シャッター (避難時停止装置付)

スラット	B-1	スチール1.6t	開閉機	SG13	定格出力	3φ200V	0.13kw	50Hz	設計範囲	A
産板	ステンレス	巻取シャフト	4"-356	押ボタン	SEOS II-BCT	備考	急降下停止装置付 (35)			
ガイドレール	ステンレス	軸受	No.0	手動閉鎖装置	ER-III					
まぐさ	ステンレス	軸受	No.0	解放装置	DC24V 400mA					
ケース	スチール	手動時操作	ハンドル式							



地震時の落下リスク低減対策 (軸受への振れ止め、シャフト両側へのずれ止めカラーを設置) を標準仕様とする

部材名	スラット	産板	ガイドレール	まぐさ	ケース	軸受	巻取シャフト	三方枠
塗装	①	①	①	①	①	②	②	無し
塗装①	錆止め		JPMS-28					塗装仕様 C42 枠塗装無
塗装②	錆止め		JIS K 5674					仕上げ塗装 (建築工事)
塗装③	-							

